



農研機構

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

ご案内

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 農林水産省北陸農業試験場畜産研究施設 公開日: 2024-11-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24514/0002001242

ご案内



農林水産省北陸農業試験場
畜産研究施設

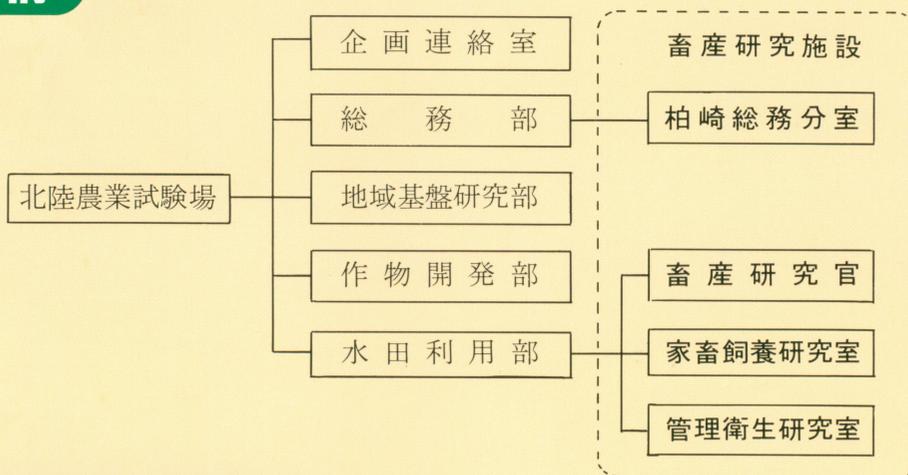
沿革

- 昭和18年（1943）：馬事訓練所として設置される。
- 昭和20年（1945）：終戦により馬事訓練所が廃止される。
- 昭和21年（1946）：新潟県柏崎家畜保健衛生所が設置される。
- 昭和26年（1951）：農林省家畜衛生試験場北陸支場が設置される。
- 昭和63年（1988）：地域農業試験場組織整備に伴い、農林水産省北陸農業試験場畜産研究施設となり、現在に至る。

役割

当施設は北陸地域の畜産研究の拠点として、北陸水田地帯における肉用牛経営を確立することを目的に、地域飼料資源を有効活用した飼養技術の確立及び積雪地帯における家畜飼養環境の改善を目指した研究を進める。

機構



敷地及び建物面積

●敷地面積：99,703 m²

●建物面積：3,971 m²

●立木量：784 m³

内訳/ 庁舎 3,366 m²

宿舎 605 m²

牛の食事をより豊かに

家畜飼養研究室

水田や転換畑で生産される稲わら、飼料用稲及び飼料作物などを高度に活用した土地利用型畜産の定着を促進するための技術開発を行う。特に大きな飼料資源である稲わらを水田から効率的に収集し、貯蔵性、家畜による消化性、嗜好性を向上させる技術の開発、及びこれらを最大限に利用して家畜の生理・生産条件に適合した飼料を給与する技術の開発を中心に研究を進める。



アンモニア処理稲わらの給与



呼吸試験装置とデータ処理装置



飼料成分の分析



《主な研究課題》

- 稲わらを基準とした”粗飼料価”評価法の開発
- 熱帯緑肥作物セスバニアの飼料化可能性に関する研究
- 産肉特性：繊維の給与水準が肥育牛の発育に及ぼす影響（平、2～4）
- 地域生産素材の利用拡大による混合飼料生産・利用技術（平、3～5）

牛の住まいをより快適に

管理衛生研究室

北陸地方は冬期間雪にうずもれ、畜舎内は低温・多湿となる。逆に夏は蒸し暑く、またフェーン現象による異常高温が頻繁に出現する。そこで、このような厳しい畜舎環境を省力かつ省コスト的な方法で制御し、牛を健康に効率よく育成する技術開発を目指す。そのため畜舎環境の諸条件と家畜の生理機能や生産性との関係を明確にし、それぞれの環境要因をどの程度制御すればよいかを究明する。また、種々の化学的処理を加えた飼料の安全性についても検討を進めている。



血液成分の分析



畜舎内の環境の測定
(温・湿度、風向・風速等)



各種処理飼料の安全性試験



稲わら、麦わらのアンモニア処理

《主な研究課題》

- アンモニア処理粗飼料摂取に伴う家畜の生理障害防除法の開発
- 積雪地環境下における家畜生産性阻害要因の抽出
- 肉用牛に対する熱帯原産マメ科植物の飼料適正評価 (平, 3~9)

施設の概要



実験施設風景



パドックで遊ぶ牛群



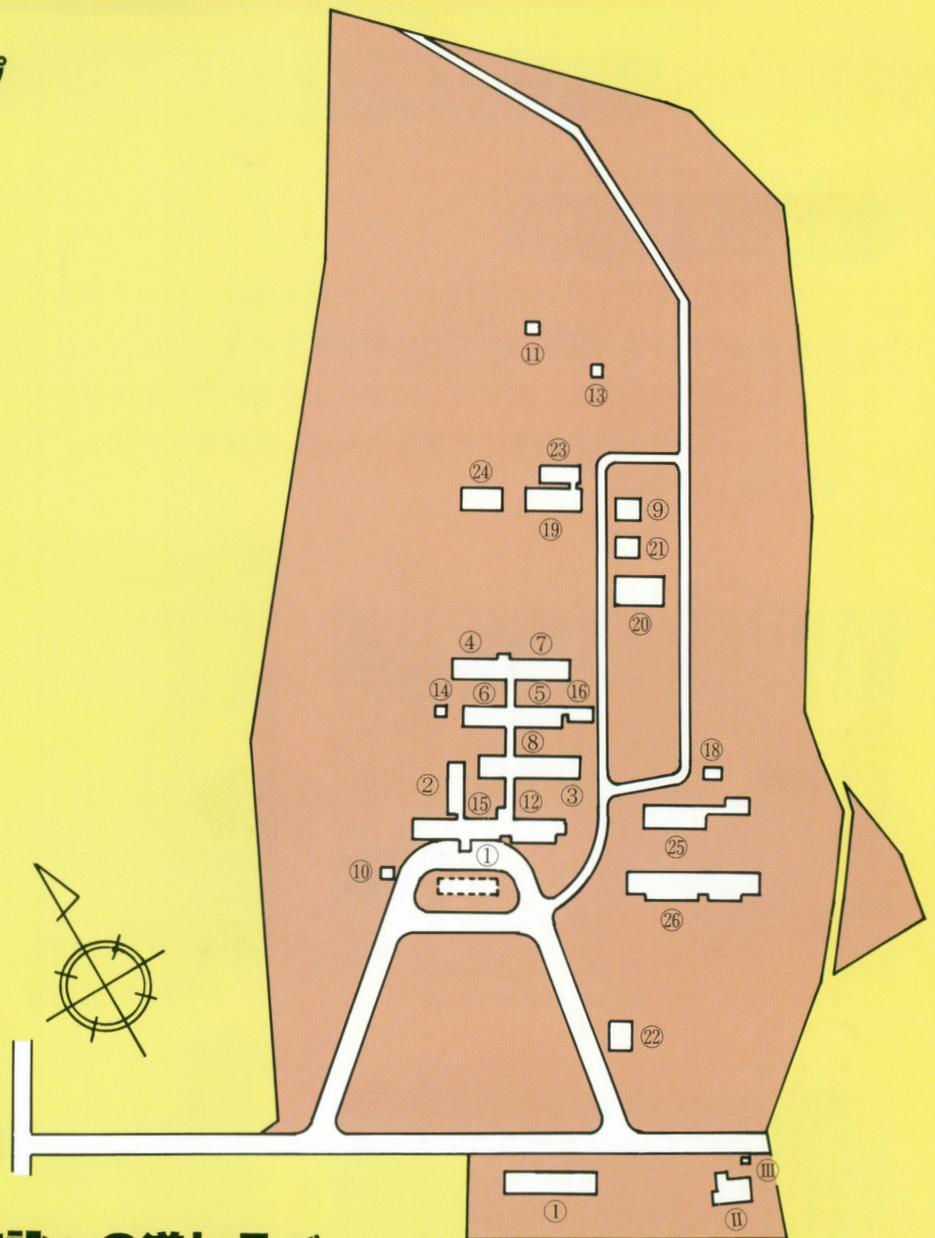
実験用山羊の生産と育成



熱帯マメ科植物「セスバニア」の収穫

■ 場内マップ

- ① 庁舎
- ② 研修室
- ③ 家畜飼養研究室
- ④ 諸作業室
- ⑤ 洗浄室
- ⑥ 家畜飼養実験室
- ⑦ 管理衛生実験室
- ⑧ 渡廊下
- ⑨ 山羊舎
- ⑩ 自動車車庫
- ⑪ 詰所
- ⑫ 渡廊下
- ⑬ 牛衛器上屋
- ⑭ 薬品倉庫
- ⑮ 渡廊下
- ⑯ 管理衛生研究室
- ⑰ 渡廊下
- ⑱ 油脂貯蔵庫
- ⑲ 動物舎
- ⑳ 実験動物舎
- ㉑ 焼却炉上屋
- ㉒ 排水処理施設
- ㉓ サイロ上屋
- ㉔ 堆肥処理施設
- ㉕ 農業機械格納庫
- ㉖ 稲藁格納庫
- I 共同宿舎
- II 単独宿舎
- III 単独宿舎付属物置



■ 畜産研究施設への道しるべ



信越本線「柏崎駅」下車

- 桜木町経由「当施設」まで
6 kmの距離
- バス、タクシーの利用
出雲崎方面行「松浜中学校前」
まで15分
- 北陸自動車道の利用
柏崎インターより20分

■ 所在地

〒945 新潟県柏崎市松波4丁目7番18号

TEL 0257-22-6118

FAX 0257-24-9804